

石北線(旭川～網走間)
第2期事業計画(アクションプラン)

石北線（旭川～網走間）第2期事業計画（アクションプラン）

－ 目 次 －

●序章	・・・・・・・・	1ページ
(1) はじめに		
(2) 策定経緯		
●第1章 第1期事業計画（アクションプラン）の検証について	・・・・・・・・	2ページ
●第2章 基本的事項	・・・・・・・・	2～3ページ
(1) 位置づけ		
(2) 推進母体		
(3) その他		
●第3章 石北線のおかれた状況	・・・・・・・・	3～5ページ
(1) 関係市町村の状況		
(2) 石北線の状況		
(3) これまでの協議状況		
●第4章 取組方針	・・・・・・・・	5～6ページ
(1) 目的		
(2) 基本指標		
●第5章 具体的取組内容	・・・・・・・・	6～7ページ
(1) 基本方針		
(2) 具体的取組内容		
●第6章 今後の進め方	・・・・・・・・	8ページ
●別冊 第1期1年目報告書		
●別添資料		

序章（はじめに）

(1) はじめに

この計画は、石北線（旭川～網走間）を維持・活性化するため、3年間でJ R北海道と地域の関係者が一体となって取り組む内容を事業計画（アクションプラン）としてまとめたものである。

(2) 策定経緯

- 厳しい経営状況におかれたJ R北海道は、平成28（2016）年11月に単独では維持困難な線区を公表して、地域の関係者と協議を行ってきた。
- このような中、平成30（2018）年7月国土交通省は、J R北海道に対し、「J R北海道の経営改善に向けた取組」を着実に進めるよう監督命令を発出した。
- 監督命令に基づき、令和元（2019）年度及び令和2（2020）年度を「第1期集中改革期間」とし、J R北海道と地域の関係者が一体となって、利用促進やコスト削減などに取り組むとともに、持続的な鉄道網の確立に向け徹底的な検討を行うため、事業計画（以下「第1期事業計画（アクションプラン）」という。）を策定した。
- 令和2（2020）年8月5日、J R北海道と地域の関係者は、第1期事業計画（アクションプラン）1年目の検証結果を国土交通省へ報告し、着実に取組が行われていることが確認された。
- 令和2（2020）年12月12日、J R北海道と地域の関係者は、第1期事業計画（アクションプラン）2年目第2四半期までの取り組み状況を国土交通省へ報告した。
- こうした取り組みを踏まえ、令和3（2021）年度から令和5（2023）年度までの「第2期集中改革期間」に取り組む事業計画（以下「第2期事業計画（アクションプラン）」という。）を策定することとした。

第1章 第1期事業計画（アクションプラン）の検証について

監督命令に基づき、J R北海道と地域の関係者は、第1期事業計画（アクションプラン）1年目の検証を行った。なお、報告書は別冊のとおりである。2年目の検証は令和3年度に行う。

第2章 基本的事項

(1) 位置づけ

- 第2期事業計画（アクションプラン）は、J R北海道の徹底した経営努力を前提として、鉄道を持続的に維持する仕組みを構築するために、J R北海道と地域の関係者が協力しながら、「監督命令」で命じられた「第2期集中改革期間」の3年間に具体的に取り組む内容を記載したものである。
- 将来に向けて線区の持続性を確保するため、この計画を共に取り組むことを通して、J R北海道と地域の関係者が一体となって取り組む気運を醸成する。
- J R北海道と地域の関係者は、取組の結果を毎年度検証し、最終年度（令和5（2023）年度）には総括的な検証も行う。

(2) 推進母体

- J R北海道を代表とする委員会を第1期事業計画（アクションプラン）に引き続き設置し、地域の関係者の協力を得ながら取り組む。
- このため、第2期事業計画（アクションプラン）の推進を目的とする「石北線アクションプラン実行委員会」（以下「委員会」という。）及び事務レベルの「幹事会」を第1期事業計画（アクションプラン）に引き続き設置する。

※ 石北線アクションプラン実行委員会及び幹事会について

- ① 取組主体 J R北海道（委員会事務局）
- ② 関係者
 - 石北線沿線自治体の首長（委員会）、担当者（幹事会）
 - ・ 沿線市町村（駅のある市町村）
旭川市、当麻町、愛別町、上川町、遠軽町、北見市、美幌町、大空町、網走市
 - 広域行政機関
 - ・ 北海道
 - オブザーバー
 - ・ 国土交通省

(3) その他

- 石北線の線区としての区間は新旭川～網走間であるが、この計画での取組区間は旭川～網走間とする。

第3章 石北線のおかれた状況

(1) 関係市町村の状況

- 別添資料 1～3 ページのとおり

(2) 石北線の状況

- 別添資料 4～25 ページのとおり

(3) これまでの協議状況

- 平成 28 (2016) 年 11 月 18 日 J R 北海道が「当社単独では維持困難な線区」を公表した後、関係者の間で、石北線における持続的な鉄道網のあり方について議論が行われてきた。
- J R 北海道は、石北線を維持していきたいと考えているものの、単独では維持することが困難な状況にあることから、持続可能な交通体系のあり方について地域の皆様に問題提起を行った。
- これを踏まえ、平成 29 (2017) 年 3 月にオホーツク圏活性化期成会石北本線部会、平成 29 年 4 月にオホーツク圏活性化期成会石北本線部会・上川地方総合開発期成会石北本線合同会議が開催され、地域における石北線の維持、存続についての協議が進められている。
- 北海道は、「鉄道ネットワーク・ワーキングチーム・フォローアップ会議」を開催し、地域での議論を踏まえて「北海道の将来を見据えた鉄道網(維持困難線区)のあり方について」をとりまとめるとともに、平成 30 (2018) 年 3 月にはこれを踏まえて「北海道交通政策総合指針」を策定した。

- これらの中では、石北線は次のとおり位置づけられた。

① 石北線の現状

- 札幌圏と中核都市である北見市及び北見市と一体として都市機能を発揮する網走市を結ぶ路線であり、鉄道は、札幌と北見、網走間における旅客輸送において、最も高いシェアを占めている。また、他府県の県庁所在都市と比較して、絶対的な移動時間が大きい。
- 沿線地域は国の広域観光周遊ルートに指定されており、インバウンド等による交流人口の飛躍的な拡大に向け、重要な役割を果たすことが期待される。
- 網走市や紋別市と札幌圏を結ぶ高規格幹線道路等については、一部開通済みであるが、未整備となっている区間がある。
- 通学や通院など、住民の日常生活で利用されているが、一部利用の少ない区間もある。
- 本道の農産品等を本州方面に輸送する広域物流ルートとしての役割を一部担っているが、貨物列車の運行に関しては、現行のアポイダブル・コストルールのもと、旅客会社が線路の維持管理費の多くを負担している。

② 石北線のあり方について

- 国土を形成し、本道の骨格を構成する幹線交通ネットワークとして、負担等に係るこれまでの地域の協議を踏まえ、維持に向けて更に検討を進める。

- 平成 30 (2018) 年 7 月 27 日には、国土交通省から J R 北海道に対して「J R 北海道の経営改善について」監督命令が発出され、J R 北海道の経営改善に向けた取組を前提として鉄道を持続的に維持する仕組みの構築が必要な線区に対する方針が示された。
- 監督命令は、J R 北海道に対し、「維持する仕組み」を構築していくための前提として、令和元 (2019) 年度及び令和 2 (2020) 年度を「第 1 期集中改革期間」として、当社と地域の関係者が一体となって、利用促進や経費節減等に取り組み、持続的な鉄道網の確立に向け、2 次交通を含めたあるべき交通体系について、徹底的に検討を行うことを命じた。
- J R 北海道は、地域の関係者のご理解とご協力を得ながら、第 1 期事業計画 (アクションプラン) を策定し、利用促進と経費節減等に取り組み、四半期毎に進捗状況の確認などを行った。
- 監督命令は、「第 1 期集中改革期間」の検証を行い、着実な取組が行われていることを前提として、令和 3 (2021) 年度から令和 5 (2023) 年度までの「第 2 期集中改革期間」に移行するとともに、第 1 期集中改革期間の検証結果を第 2 期集中改革期間における取組に反映させることを命じている。

- J R 北海道は、監督命令を厳粛に受けとめ、北海道交通政策総合指針を尊重する所存であり、石北線を維持するため、地域の関係者のご理解とご協力を得ながら、「第 2 期集中改革期間」の取組を第 2 期事業計画（アクションプラン）として策定し履行する。

第 4 章 取組方針

- J R 北海道は、徹底した経営努力を前提として、鉄道を持続的に維持する仕組みの構築を行うために、地域の関係者のご協力を得ながら、地域の関係者と一体となり、利用促進、経費節減などの取組を進める。
- 監督命令に基づき事業の抜本的な改善方策の検討に向け、J R 北海道と地域の関係者は、最終年度（令和 5（2023）年度）には総括的な検証を行う。

(1) 目的

- 石北線を持続的に維持していくためには石北線の収入を増やし経費を節減することが必要不可欠である。
- このため、J R 北海道と地域の関係者は、この計画を進めることにより、収支改善に資する具体的な取組を進める。
- ※ なお、収支改善については、この計画による具体的取組以外にも長期的な利用者の減少傾向や設備投資による減価償却費の増減など、様々な変動要素について分析し、状況を把握することとする。

(2) 基本指標

- 第 1 期計画開始前の基本指標は次のとおりである。基本指標とあわせ関連指標の推移も確認しながら進める。
 - ① 収支状況（新旭川～網走間）

平成 29(2017)年度（第 1 期計画開始前）	△4,243 百万円
（営業収益 1,313 百万円、営業費用 5,557 百万円）	
 - ② 輸送密度（新旭川～網走間）

昭和 62 年度（国鉄分割民営化時）	2,415 人/日
平成 29（2017）年度（第 1 期計画開始前）	891 人/日
- ※ 関連指標
 - 駅別乗車人員、列車別乗車人員、駅間別乗車人員、駅間通過人員、定期券発売枚数 等
- 石北線の基本指標について、長期減少傾向、新型コロナウイルスに影響がある中でも第 1 期計画開始前（平成 29（2017）年度）と同水準を維持したいと考え、

最終年度（令和5（2023）年度）の目標とする。検証の際は、以下の基本指標とともに、駅間輸送人員や発売実績などの関連指標も参考とする。

① 収支状況（目標）

令和5（2023）年度（第2期計画終了時期）△4,243百万円

② 輸送密度（目標）

令和5（2023）年度（第2期計画終了時期）891人/日

第5章 具体的取組内容

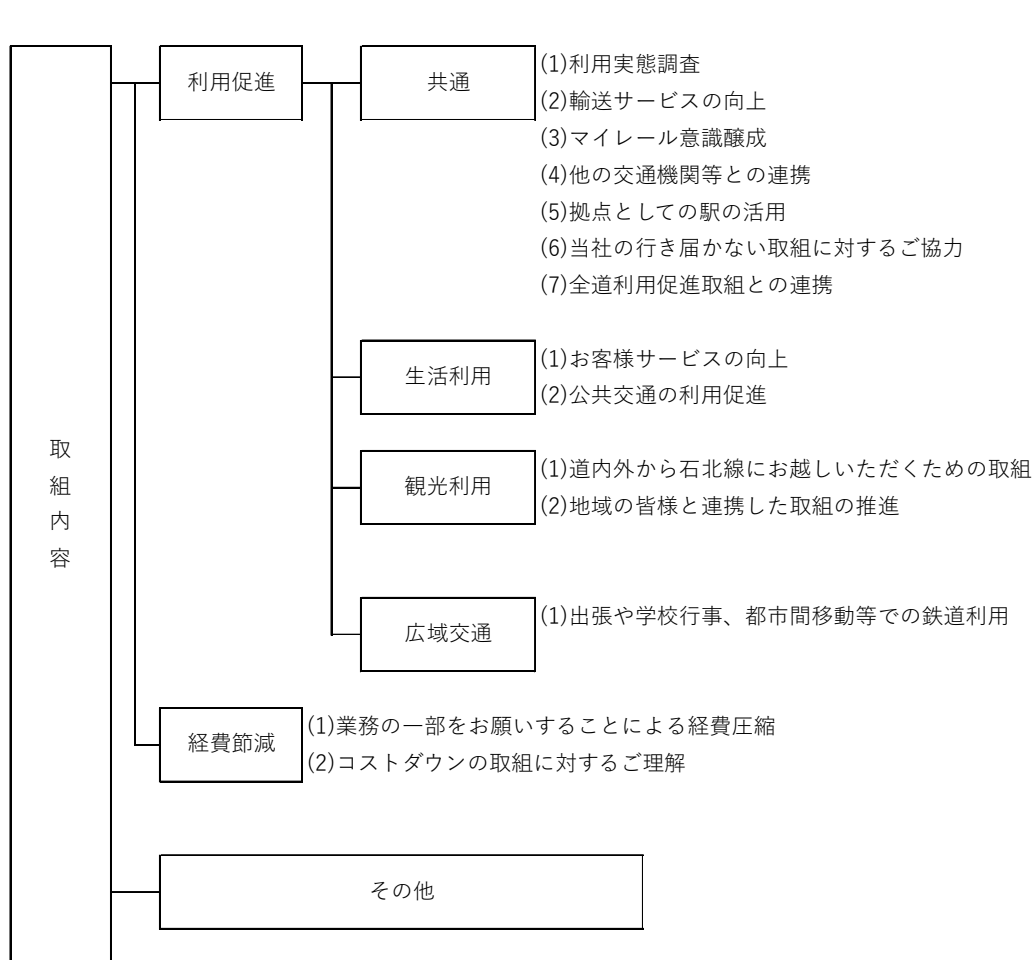
(1) 基本方針

- 石北線の収支改善を図るため、収入を増やし、経費を節減する取り組みを行う。
- 都市間輸送など幹線交通や生活路線、物流としての特性を持つことから、これらの側面を活かした取り組みを行う。
- 地域のマイレール意識醸成など、JR北海道と沿線地域の関係者が石北線の維持・活性化に向けて、一体となって取り組む。

(2) 具体的取組内容

○ 具体的な構成は以下のとおり。また、具体的取組は別紙のとおりである。

- ・ 「利用促進」「経費節減」の二つの観点から整理する。
- ・ 「利用促進」については、ご利用形態に即して「共通」「生活利用」「観光利用」「広域交通」に分類して整理する。
- ・ それぞれの取組内容について事業主体と具体的な取組内容を記述する。



第6章 今後の進め方

- 第2期事業計画（アクションプラン）は、JR北海道と地域の関係者が一体となって取り組む。
- P D C Aサイクルに基づき必要な見直しを行いながら進める。具体的には、基本指標、関連指標や計画に盛り込まれた取組内容に基づき、利用促進や経費節減に向けた取組の実施結果、指標の推移状況について、委員会・幹事会において状況報告・意見交換や取組状況の検証を行う。
- こうした状況報告・意見交換や取組状況の検証を踏まえ、必要に応じて第2期事業計画（アクションプラン）の見直しを行うとともに、基本指標についても年度実績をもとに必要により見直しを検討する。
- 第2期集中改革期間の最終年度（令和5（2023）年度）には総括的な検証を行う。

		第1期	第2期集中改革期間												令和6 (2024) 年度			
		令和2 (2020) 年度	令和3(2021)年度				令和4(2022)年度				令和5(2023)年度							
		IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV				
P	事業計画完成・公表	●																
D	取組の実施		←—————→															
	状況報告・意見交換		・	・	・	・												
C	取組状況の検証(令和3(2021)年度)		・	・	・	●												
A/P	必要な見直し		・	・	・	●												
D	取組の実施						←—————→											
	状況報告・意見交換						・	・	・	・								
C	取組状況の検証(令和4(2022)年度)						・	・	・	●								
A/P	必要な見直し						・	・	・	●								
D	取組の実施										←—————→							
	状況報告・意見交換										・	・	・	・				
C	取組状況の検証(令和5(2023)年度)										・	・	・	●				
C	総括的な検証										・	・	・	●				
A	持続可能な交通体系																	→

●：実行委員会、・：幹事会

P (P L A N)：計画（目標及び計画の策定）

D (D O)：実行（取組の実施）

C (C H E C K)：点検・評価（取組状況や効果の把握・評価（実行委員会での意見を踏まえ改善する））

A (A C T I O N)：見直し（取組の改善・見直し（年度毎に利用促進策やコスト削減策等を見直す））

石北線 具体的取組

I. 利用促進 1. 共通

取組内容		事業主体	スケジュール							
			令和3(2021)年度		令和4(2022)年度		令和5(2023)年度			
			上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(1) 利用実態調査	①統計値では把握しがたいお客様の層等を把握するための実態調査実施	JR北海道 全自治体								
(2) 輸送サービスの向上	①限りある車両でどのようなダイヤがよいか等、地域の皆様と意見交換の実施	自治体 JR北海道								
(3) マイレール意識醸成	①公共交通マップの作成	自治体								
	②地域住民向け特典付き沿線マップの作成・配布	自治体 JR北海道								
	③通勤の際の鉄道を含めた公共交通利用促進	自治体 その他								
	④地元住民との懇談会・シンポジウム・意見交換会等の実施	自治体								
	⑤公共交通機関利用の呼びかけ									
	ア. 広報誌等による鉄道利用の呼びかけ	全自治体								
	イ.ホームページによる情報発信	自治体								

取組内容		事業主体	スケジュール							
			令和3(2021)年度		令和4(2022)年度		令和5(2023)年度			
			上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(3) マイレール意識醸成	ウ. イベント実施時のJR利用促進PR会場でのチラシ配布	自治体								
	エ. 公共交通ご当地キャラクターイベントパンフレット等への掲載、グッズの作成・配布	自治体								
	オ. 利用促進パネル展の実施	自治体								
	カ. 鉄道施設見学ツアーの実施	自治体								
	⑥リーフレットの作成 線区の状況、利用のお願い、集中改革期間の内容等について利用者にご理解いただく資料の作成	JR北海道								
	⑦鉄道施設見学会などの際にJR社員から線区に関する説明の実施	JR北海道								
	⑧マイレール運動の提唱	自治体								
	(4) 他の交通機関等との連携	①バス等との相互連携の推進	自治体 JR北海道							
②イベント時の駅からの無料シャトルバスの運行		自治体								

取組内容	事業主体	スケジュール					
		令和3(2021)年度		令和4(2022)年度		令和5(2023)年度	
		上期	下期	上期	下期	上期	下期
(5) 拠点としての駅の活用	① 駅前の整備						
	ア. 駅前広場での乗り継ぎ環境 向上、案内強化の継続	自治体 JR北海道					
	② 駅の活用						
	ア. 駅舎の待合環境の向上	自治体 JR北海道 その他					
	イ. 駅内空きスペースの利活用	自治体					
	③ 駅を中心とした街にぎわい創出の検討						
	ア. 駅周辺のスペースを活用した誘客事業	自治体					
	イ. 駅周辺整備によるにぎわいと明るさあふれるまちづくりの創出	自治体					
	④ 駅舎周辺の環境整備	自治体 その他					
	⑤ 駅前広場駐車場との連携による利用環境向上	自治体 JR北海道					
(6) 当社の行き届かない取組に対するご協力	① 駅での観光案内、外国人通訳の確保 等						
	・駅での観光案内の取り組み	自治体 JR北海道 その他					
(7) 全道利用促進取組との連携	① 北海道鉄道活性化協議会との連携	全自治体 JR北海道					

2. 生活利用

取組内容		事業主体	スケジュール						
			令和3(2021)年度		令和4(2022)年度		令和5(2023)年度		
			上期	下期	上期	下期	上期	下期	
(1) お客様サービスの向上	①「スマホ定期券」の活用	JR北海道							
	②大規模輸送障害発生時の運行情報等の内容充実	JR北海道							
(2) 公共交通の利用促進	①行事等での鉄道利用の促進								
	ア. 行事等で鉄道を利用した際のJR乗車運賃等への助成	自治体							
	イ. 行事等での鉄道利用の呼びかけ	自治体							

3. 観光利用

取組内容	事業主体	スケジュール					
		令和3(2021)年度		令和4(2022)年度		令和5(2023)年度	
		上期	下期	上期	下期	上期	下期
(1) 道内外から石北線にお越しいただくための取組	①商品造成やキャンペーンの実施 航空会社と連携した利用促進						
	ア. JAL/JR北海道 ひがし&きた 北海道キャンペーンの実施	JR北海道					
	イ. LCCとタイアップしたフリーパスの設定	JR北海道					
	②お客様のご利用の少ない閑散期の 需要創出 ・フリーパス等を活用した石北線利用促進の 取組	JR北海道 その他					
	③宣伝協力 ・駅等での宣伝協力	自治体 JR北海道 その他					
	④鉄道利用旅行者への助成制度の導入	自治体					
	⑤民間団体等による利用促進活動 に対する 支援	自治体					
	⑥観光列車「流水物語号」の運転 ・流水物語号の魅力向上に向けた取組	自治体 その他					
	⑦施設巡りバスによる着地型観光交通の取り組み	自治体 その他					
⑧オンデマンドバスの観光利用とシームレス交通 の検討	自治体						
(2) 地域の皆様と連携した 取組の推進	①沿線や周辺地域にお住まいの皆様にお出かけ を呼びかけ						
	ア. ヘルシーウォーキングの実施	自治体 JR北海道 その他					
	イ. ご当地キャラクターによる乗車 イベント の実施	自治体 JR北海道					
	ウ. 鉄道施設を利用した乗車イベント の実施	自治体 JR北海道					

取組内容	事業主体	スケジュール								
		令和3(2021)年度		令和4(2022)年度		令和5(2023)年度				
		上期	下期	上期	下期	上期	下期			
(2) 地域の皆様と連携した取組の推進	エ. 鉄道周辺施設等の情報提供による鉄道利用の働きかけ	自治体								
	②地域のお祭りやイベント等の告知などによる鉄道利用促進									
	ア. 駅前広場のイベント活用による賑わいの創出	自治体 その他								
	イ. 駅舎のイベント活用による賑わいの創出	自治体 JR北海道 その他								
	ウ. 地域イベントへの列車来場の誘引	自治体 JR北海道								
	③観光資源の積極的な活用									
	ア. 新聞広告等を活用した鉄道利用のPR	自治体								
	イ. 鉄道利用のPRポスター・パンフレット作成・配布	自治体								
	ウ. 鉄道カレンダーの作成	自治体								
	④パンフレットやHPの作成連携									
	・JR路線案内も含めた観光案内の実施	自治体								
	⑤特急列車内の特産品販売	自治体 JR北海道 その他								
	⑥サイクリング観光客への鉄道利用PR	自治体 その他								
	⑦市民団体等による賑わいの創出に対する助成	自治体 その他								
	⑧「THE ROYAL EXPRESS」運行に伴う賑やかしの実施。	自治体 JR北海道								

4. 広域交通

取組内容	事業主体	スケジュール						
		令和3(2021)年度		令和4(2022)年度		令和5(2023)年度		
		上期	下期	上期	下期	上期	下期	
(1) 出張や学校行事、都市間移動等での鉄道利用	①官公庁、域内事業所等による出張等での鉄道利用の促進	全自治体 その他						
	②学校行事等での鉄道利用促進	自治体						
	③えきねっとトクだ値による需要や動向を踏まえた割引の設定	JR北海道						

II. 経費節減

取組内容	事業主体	スケジュール								
		令和3(2021)年度		令和4(2022)年度		令和5(2023)年度				
		上期	下期	上期	下期	上期	下期			
(1) 業務の一部をお願いすることによる経費圧縮	①業務委託の実施の検討	全自治体 JR北海道 その他								
	②当社の行き届かない取組について自治体側での実施の検討	全自治体 JR北海道 その他								
(2) コストダウンの取組に対するご理解	①ご利用の少ない駅の見直し	自治体 JR北海道								
	②ご利用の少ない踏切の見直し	自治体 JR北海道								
	③中長期的な視点に立った設備スリム化の可能性について検討	全自治体 JR北海道								

III. その他

取組内容		事業主体	スケジュール							
			令和3(2021)年度		令和4(2022)年度		令和5(2023)年度			
			上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(1) あるべき交通体系について徹底的な検討	①あるべき交通体系について地域の皆様と検討	全自治体 JR北海道 その他								
	②2次交通との連携に向けた検討									
	ア.鉄道とバスの連携による相互に成り立つ仕組み作りに向けた検討	自治体 JR北海道								
	イ.地域公共交通計画の策定	自治体								
	ウ.地域公共交通会議等の活用及び推進	自治体 JR北海道								
(2) 鉄道施設を維持するための取組の検討	①中長期的に鉄道施設を維持するため、集中工事等を実施する仕組み作りを関係自治体と協議し行う。	全自治体 JR北海道								

アクションプラン
第1期計画1年目報告書
(令和元年度)
石北線

令和2年8月
石北線アクションプラン実行委員会

1. はじめに

- **本報告書は、平成31年4月9日に公表されたアクションプラン第1期計画1年目の取組状況について、石北線アクションプラン実行委員会が検証を行い、その結果を取りまとめたものである。**
- **1年目の検証結果を踏まえた上で、2年目の主要施策やKPI指標について必要な見直しを行い、より効果的な対応を検討していく。**

2. 基本指標・関連指標の検証

○ 基本指標の概況

- ・ 線区別収支は、▲4,441百万円となり基準とした平成29年度より197百万円悪化した。
営業収益は対前年68百万円減少した1,136百万円（前年比94%）となった。
営業費用は対前年48百万円減少した5,577百万円（前年比99%）となった。営業損失は対前年20百万円拡大した。
- ・ 輸送密度は775人/日となり基準とした平成29年度より116人/日減少した。

▼令和元年度基本指標の収支状況

項目	平成29年度 (基準)	令和2年度 (目標)	令和元年度 (実績)	目標 達成	備考
線区別収支	▲4,243百万円	▲4,243百万円	▲4,441百万円	未達成	
輸送密度	891人/日	891人/日	775人/日	未達成	

3. 具体的取組の検証

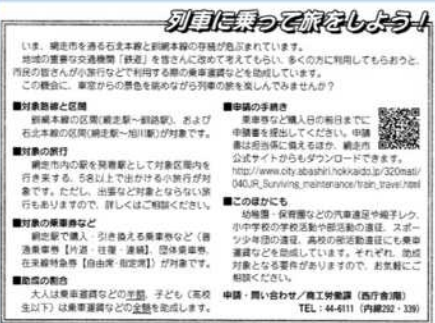

○ 進捗状況

- ・アクションプラン具体的取組にあたっては、地域の皆様のご理解とご協力を頂きながら進め、進捗状況は目標達成「◎」が10%、達成見込「○」が88%、一部達成「△」が2%、見込無「×」が0%、未評価「－」が0%となった。
- ・具体的取組、検証結果等の詳細は別紙を参照。



▼令和元年度アクションプラン進捗状況

進捗状況	件数	割合	コメント
◎	6	10%	「新聞広告を活用した鉄道利用PR」や「地域住民と連携した開駅周年イベントの実施」等の項目において令和元年度中に目標達成。
○	56	88%	地域の皆さまと一体となった取組みにより項目の9割が1年目の目標達成。
△	1	2%	計画していた「フォトコンテスト」は類似した取組があり次年度に取組む。
×	0	0%	
－	0	0%	
合計	63	100%	



4. 令和元年度象徴的な取組について①

取組内容	取組状況	目標達成
<p>(1) JR乗車運賃等への助成</p>	<p>グループ旅行や幼稚園等の遠足または部活動等での列車利用に対する助成制度を設けました。 (北見市、網走市、遠軽町、大空町、旭川市) また、列車通学生への定期券助成制度を設けました。 (愛別町、上川町)</p>	 <p>(広報あばしり令和元年5月号)</p>
<p>(2) 鉄道利用旅行者への助成</p>	<p>鉄道利用旅行者に対する助成商品を造成しました。 (北見市、網走市) 鉄道利用旅行者に対する助成制度を設けました。 (遠軽町)</p>	 <p>(北見市、網走市助成パックの告知 / ホームページでの掲載例)</p>

4. 令和元年度象徴的な取組について②

取組内容	取組状況		目標達成
(3) 特急列車内の特産品販売	<p>沿線地域の特産品をお客様に楽しんでいただくため、北見市、網走市、遠軽町、大空町、美幌町及びオホーツク総合振興局の皆様が特急列車車内で特産品販売を実施しました。令和元年6月1日(土)から令和2年2月24日(月・休)までの土日祝休日で、計78回実施しました。</p>	 <p>(令和元年6月撮影)</p>	○
(4) 地域住民と連携した開駅周年イベントの実施	<p>8月12日(月・休)、白滝駅の開駅90周年の記念イベントを開催し、記念ポストカードの配布やパネル展示を行いました。これに先立ち、6月に白滝小学校の児童の皆様や地域の皆様が駅舎の内装を塗り直しました。</p>	 <p>(令和元年8月撮影・白滝駅)</p>	◎

4. 令和元年度象徴的な取組について③

取組内容	取組状況		目標達成
<p>(5) 地元住民との懇親会・シンポジウム・意見交換会等の実施</p>	<p>6月26日(水)、遠軽町で鉄道維持に関するフォーラム「みんなで守ろう!石北本線」が開催され、町内外から約150名が参加しました。石北線の維持に向けてすべきこと、観光面での利用促進などが討議されました。</p>	 <p>(令和元年6月26日撮影・遠軽町)</p>	○
<p>(6) ご当地キャラクターによる公共交通利用の呼びかけ</p>	<p>10月14日(月)、旭川駅で石北線利用促進PR活動を行いました。石北線をご利用いただくため旭川市、当麻町、愛別町、上川町のご当地キャラクターが、石北線沿線マップなどを配布しながら石北線の利用を呼びかけました。</p>	 <p>(令和元年10月14日撮影・旭川駅)</p>	○

4. 令和元年度象徴的な取組について④

取組内容	取組状況	目標達成
<p>(7) 広報誌等を活用した 鉄道利用の呼びかけ</p>	<p>各自治体において毎月発行している広報誌に「鉄道(公共交通)利用促進」あるいは「鉄道に関連する地域の取組等」の記事を掲載しました。 平成31年4月～令和2年3月までの期間、石北線沿線自治体9市町において延べ26回掲載しました。</p> <div data-bbox="1256 416 1899 879" data-label="Image"> </div> <p>(広報あばしり平成31年4月号別冊)</p> <div data-bbox="1377 922 1771 1342" data-label="Image"> </div> <p>(広報きたみ令和2年1月号)</p>	<p>目標達成</p> <p style="text-align: center;">○</p>

5. 令和元年度取組の検証

- ・ JR北海道と沿線自治体等が一体となってアクションプランに取組み、効果をあげることができた。
- ・ 都市間輸送の利用促進を図るため地域住民を対象とした運賃等への助成制度や鉄道利用旅行者への助成制度を設け効果を上げた。
- ・ 地域のマイレール意識の醸成に向けて、広報誌による鉄道利用の呼びかけ、フォーラムの開催、ご当地キャラクターによるPR、地元ボランティアによる駅の修繕を行うなど地域の皆様と一体となった取組みにより、意識醸成を図ることができた。
しかしながら基本指標に定めた線別収支では基準とした平成29年度と比較して197百万円悪化し、輸送密度では87%と目標に至らなかった。
- ・ 地域と当社が連携し令和元年度は取組んできたところであるが、令和2年度は令和元年度の検証を踏まえ見直しを行い、輸送密度向上を図る。

石北線 具体的取組

I. 利用促進

1. 共通

区分	取組内容	事業主体	目標達成 (第4四半期)	スケジュール									
				H29		H30		R1		R2			
				上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(1) 利用実態調査	①統計値では把握がたいお客様の層等を把握するための実態調査の新設	JR北海道 全自治体	○										
(2) 輸送サービスの向上	①どのようなダイヤがよいか等、利用者のニーズを捉え、地域の皆様と意見交換の実施	自治体 JR北海道	○										
(3) マイレール意識醸成	①公共交通マップ等の作成	自治体	○										
	②地域住民向け沿線マップの作成・配布	自治体 JR北海道	○										
	③通勤の際の鉄道を含めた公共交通利用促進	自治体 その他	○										
	④地元住民との懇談会・シンポジウム・意見交換会等の実施	自治体	○										
	⑤公共交通機関利用の呼びかけ												
	ア. 広報誌等を活用した鉄道利用の呼びかけ	全自治体	○										
	イ. イベント実施時の鉄道利用促進PR 会場でのチラシ配布	自治体	○										
	ウ. ご当地キャラクターによる公共交通利用の呼びかけ	自治体	○										
	エ. 利用促進パネル展の実施 (追加)	自治体	◎										
	⑥リーフレットの作成 線区の状況、利用のお願い、集中改革期間の内容等について利用者にご理解いただく資料の作成	JR北海道	○										
⑦鉄道施設見学会などの際にJR社員から線区に関する説明の実施	JR北海道	○											
⑧マイレール運動の提唱	自治体	○											

1. 共通

区分	取組内容	事業主体	目標達成 (第4四半期)	スケジュール									
				H29		H30		R1		R2			
				上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(4) 他の交通機関等との連携	①バス等との相互連携の推進	自治体 JR北海道	○										
	②イベント時の駅からの無料シャトルバスの運行	自治体	○										
(5) 拠点としての駅の活用	①駅前の整備												
	ア. 駅前での乗り継ぎ環境向上	自治体 その他	○										
	②駅の活用												
	ア. 駅舎の待合環境の向上	自治体 JR北海道 その他	○										
	イ. 駅内空きスペースの利活用	自治体	○										
	③駅を中心とした街にぎわい創出の検討												
	ア. 駅周辺のスペースを活用した誘客等	自治体	○										
④駅舎周辺の環境整備	自治体 その他	○											
⑤駅前広場駐車場との連携による利用環境の向上	自治体 JR北海道	○											
(6) 当社の行き届かない取組に対するご協力	①駅での観光案内、外国人通訳の確保等												
	ア. 駅での観光案内の取り組み	自治体 JR北海道 その他	○										
(7) 全道利用促進取組との連携	①北海道鉄道活性化協議会との連携												
	ア. 公共交通の利用促進に向けた道民運動の展開	JR北海道 全自治体	○										
	イ. 鉄道利用者の拡大 (追加)	JR北海道 全自治体	○										
	ウ. 道外、海外観光客の利用拡大 (追加)	JR北海道 全自治体	○										
	エ. 本道の鉄道網の重要性に関する国民的理解、 応援機運の醸成 (追加)	JR北海道 全自治体	○										

2. 生活利用

区分	取組内容	事業主体	目標達成 (第4四半期)	スケジュール									
				H29		H30		R1		R2			
				上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(1) お客様サービスの向上	①「スマホ定期券」の活用	JR北海道	○										
	②大規模輸送障害発生時の運休等情報内容の充実	JR北海道	○										
(2) 公共交通の利用促進	①行事等での鉄道利用の促進												
	ア. 行事等で鉄道を利用した際のJR乗車運賃等への助成	自治体	○										
	イ. 行事等での鉄道利用の呼びかけ	自治体	○										

3. 観光利用

区分	取組内容	事業主体	目標達成 (第4四半期)	スケジュール									
				H29		H30		R1		R2			
				上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(1) 道内外から石北線にお越しいただくための取組	①商品造成やキャンペーンの実施 ア. ひがし&きた北海道キャンペーンの実施やLCCと タイアップしたフリーパスの設定	JR北海道	○										
	②閑散期の需要創出 ・フリーパス等を活用した石北線利用促進の取組	JR北海道 その他	○										
	③宣伝協力 ・駅等での宣伝協力	自治体 JR北海道 その他	○										
	④鉄道利用旅行者への助成制度の導入	自治体	○										
	⑤民間団体等による利用促進活動に対する支援	自治体	○										
	⑥流水物語号の魅力向上に向けた取組	自治体 その他	○										
	⑦施設巡りバスによる着地型観光交通の取り組み	自治体 その他	○										
(2) 地域の皆様と連携した取組の推進	①沿線や周辺地域にお住まいの皆様にお出かけを促す ア. ヘルシーウォーキングの実施	自治体 JR北海道 その他	○										
	イ. ご当地キャラクターによる乗車イベントの実施	自治体 JR北海道	○										
	ウ. 鉄道施設を利用した乗車イベントの実施 (追加)	自治体 JR北海道	◎										
	②地域のお祭りやイベント等の告知などによる鉄道利用 促進												
	ア. 駅前広場や駅舎のイベント活用による賑わいの 創出	自治体 JR北海道 その他	○										
	イ. 地域イベントへの列車来場の誘引	自治体 JR北海道	○										
	③観光資源の積極的な活用												
	ア. フォトコンテストの実施	自治体 JR北海道	△										
	イ. オホーツク鉄道祭り (追加)	自治体 その他	◎										
	ウ. 新聞広告を活用した鉄道利用のPR (追加)	自治体	◎										
エ. 鉄道利用のPRポスター・パンフレット作成 (追加)	自治体	◎											
④パンフレットやHPの作成連携													
ア. JR路線案内も含めた観光案内の実施	自治体	○											

3. 観光利用

区分	取組内容	事業主体	目標達成 (第4四半期)	スケジュール									
				H29		H30		R1		R2			
				上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(2) 地域の皆様と連携した取組の推進	⑤特急列車内の特産品販売 ・石北線における実施	全自治体 JR北海道 その他	○										
	⑥スタンプラリー等による利用促進策の実施	全自治体 JR北海道 その他	○										
	⑦サイクリング観光客への鉄道利用PR	自治体 その他	○										
	⑧市民団体等による賑わいの創出に対する助成	自治体 その他	○										
	⑨地域住民と連携した開駅周年イベントの実施 (追加)	自治体 その他	◎										

4. 広域交通

区分	取組内容	事業主体	目標達成 (第4四半期)	スケジュール									
				H29		H30		R1		R2			
				上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(1) 出張や学校行事、都市間移動等 での鉄道利用	①官公庁、域内事業所等による出張等での鉄道利用の 促進	全自治体 その他	○										
	②学校行事等での鉄道利用促進	自治体	○										
	③えきねっとクダ値による需要や動向を踏まえた割引 の設定	JR北海道	○										

II. 経費節減

区分	取組内容	事業主体	目標達成 (第4四半期)	スケジュール									
				H29		H30		R1		R2			
				上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(1) 業務の一部をお願いすることによる経費圧縮	①無人駅の管理 地域自治会等が管理している駅待合の管理の継続	自治体 その他	○										
(2) コストダウンの取組に対するご理解	①極端にご利用の少ない駅の廃止についての各自治体との協議	自治体 JR北海道	○										
	②ご利用の少ない踏切の見直しについての各自治体との協議	自治体 JR北海道	○										

III. 第2期集中改革期間に向けた取組内容の検討

区分	取組内容	事業主体	目標達成 (第4四半期)	スケジュール									
				H29		H30		R1		R2			
				上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(1) あるべき交通体系について徹底的な検討	①あるべき交通体系について地域の皆様と検討の開始	全自治体 JR北海道 その他	○										
	②2次交通との連携に向けた検討	自治体 JR北海道 その他	○										
(2) 業務の一部をお願いすることによる経費圧縮	①業務委託の実施の検討	全自治体 JR北海道 その他	○										
	②当社の行き届かない取組について自治体側での実施の検討	全自治体 JR北海道 その他	○										
(3) 中長期的な経費節減策についての検討	①中長期的な視点に立った設備スリム化の可能性について検討	全自治体 JR北海道	○										

【別添資料】

(1) 関係市町村の状況

①総人口の推移[年齢別]	1ページ
②市町村別人口の推移	2ページ
③市町村別通学年齢人口(15～19歳)の推移	3ページ

(2) 石北線(新旭川・網走間)の状況

①沿線地図	4ページ
②沿革	5ページ
③諸元	5ページ
④ご利用状況の推移(輸送密度の推移)	6ページ
⑤定期列車本数の推移	7ページ
⑥駅別乗車人員	8～9ページ
⑦列車別乗車人員	10～13ページ
⑧駅間別乗車人員	14ページ
⑨駅間通過人員	15ページ
⑩定期券発売枚数	16～17ページ
⑪線区別収支	18ページ
⑫土木構造物の現況、土木構造物の大規模修繕・更新費用	19～24ページ
⑬車両の更新費用	25ページ

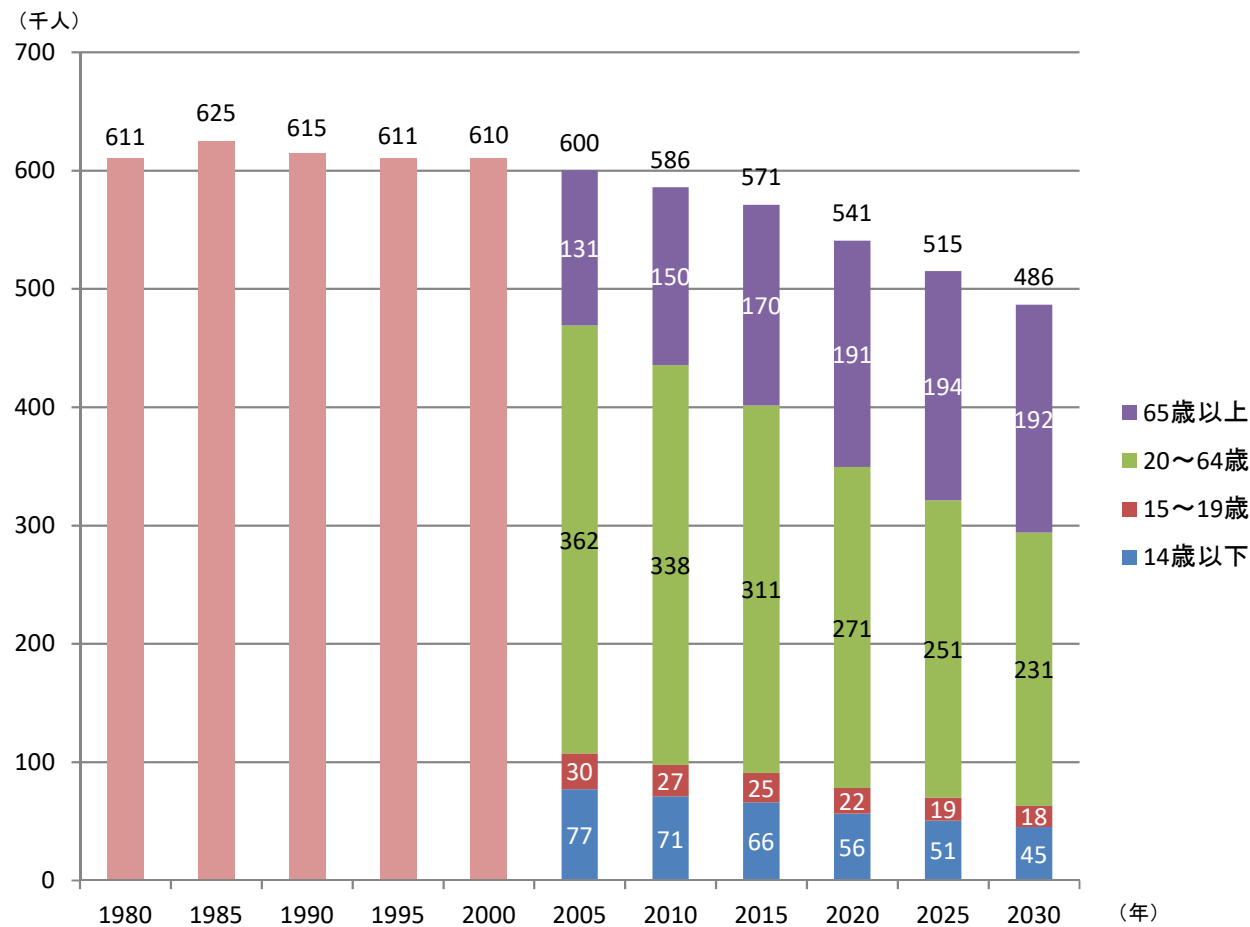
注)

各データとも令和元年度

- ④輸送密度 : ご利用されるお客様の1日1kmあたりの平均人数
- ⑥駅別乗車人員 : 特定日の調査における、実際にご乗車されたお客様の駅ごとの人数(直近5年間の平均)
- ⑦列車別乗車人員 : 特定日の調査における、実際にご乗車されたお客様の列車ごとの人数
- ⑧駅間別乗車人員 : 特定日の調査における、実際にご乗車されたお客様の駅間ごとの人数
- ⑨駅間通過人員 : きっぷの発売状況に基づく、1日あたりのお客様の駅間ごとの人数
- ⑩定期券月平均発売枚数 : 1か月あたりの各駅相互間の通勤・通学定期券の発売枚数

(1) 関係市町村の状況

① 総人口の推移〔年齢別〕



(出典)

・2000年以前 住民基本台帳人口・世帯数【北海道地域振興局町村課】

・2005年～2015年 振興局市区町村別年齢5歳階級別人口【北海道地域振興局町村課】

・2020年以降 日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)【国立社会保障・人口問題研究所】

※2005年以前の北見市には端野町・常呂町・留辺蘂町・遠軽町には生田原町・丸瀬布町・白滝村、大空町には女満別町・東藻琴村の実績を含む。

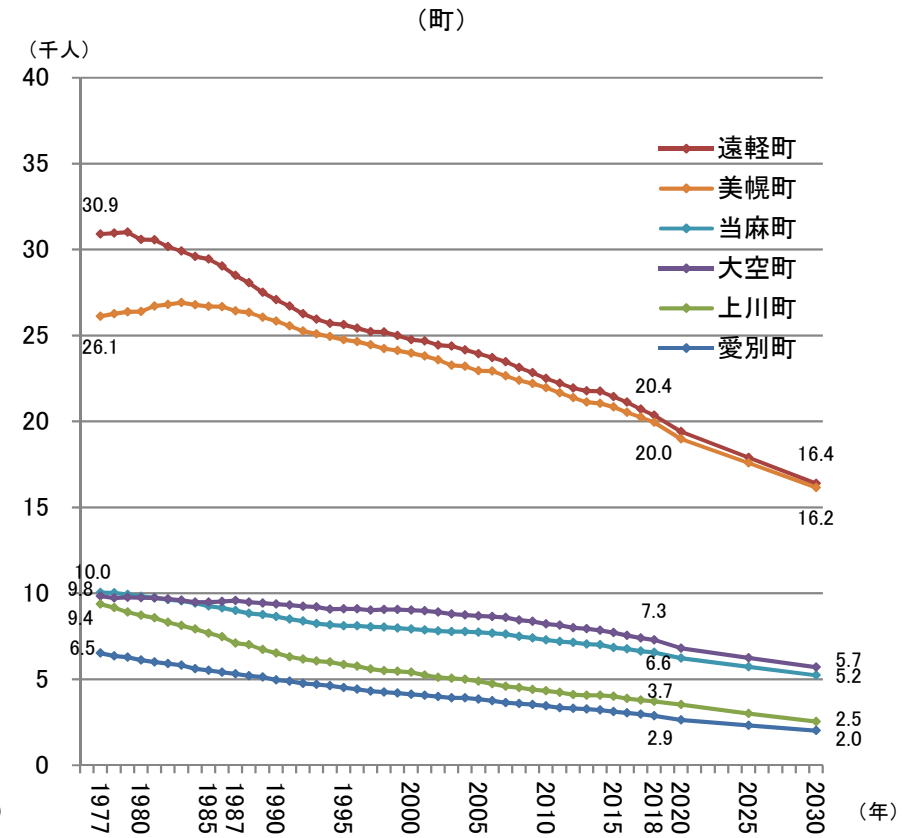
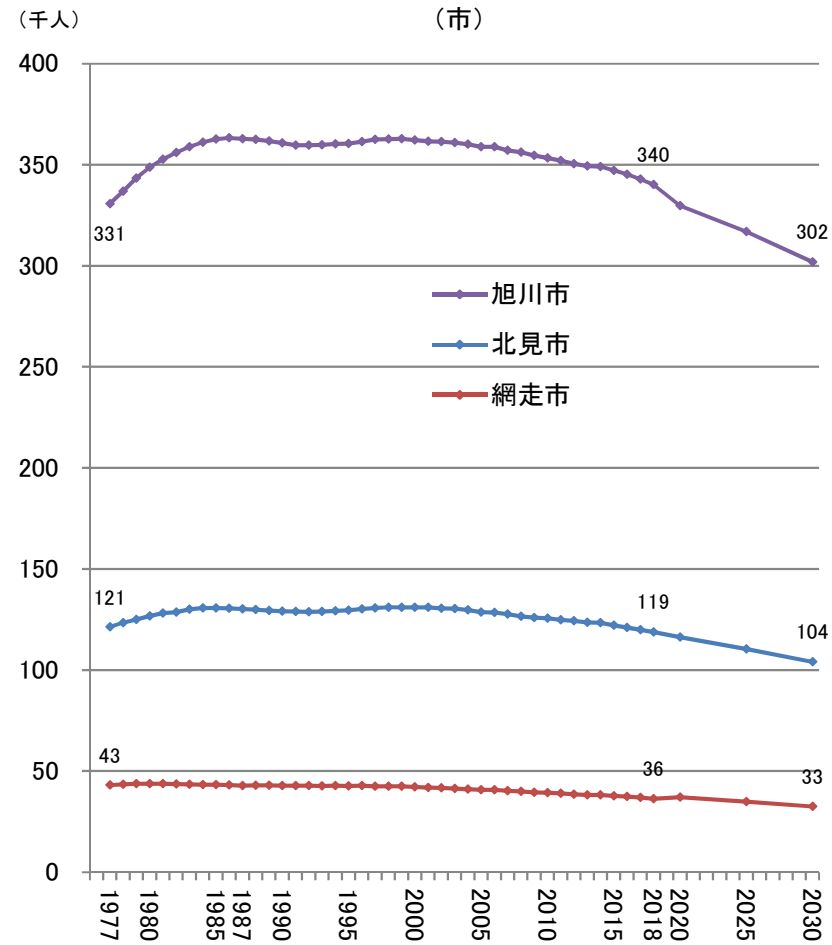
石北線(旭川～網走間)の関係市町村の総人口は、約55.6万人(2018年)である。

その推移をみると、全体的に減少傾向が続いており、JR北海道発足時(1987年)と比較すると、2018年で10.6%減少し、2030年(推計)では21.8%減少が見込まれる。

年齢別では、年齢別人口が公表された2002年と比較すると65歳以上が増加しており、2018年で50.3%増、2030年(推計)では60.3%増が見込まれている。一方で、通学定期の主な対象者である15～19歳は2018年で-30.4%、2030年(推計)では-48.5%と半減することが見込まれている。

市町村別では全ての市町村で人口が減少しており、今後も減少が予測されている。減少率は、旭川市がもっとも緩やかである。15～19歳の人口は、各市町村とも大幅に減少しており、今後もさらに減少することが予測されている。

②市町村別人口の推移



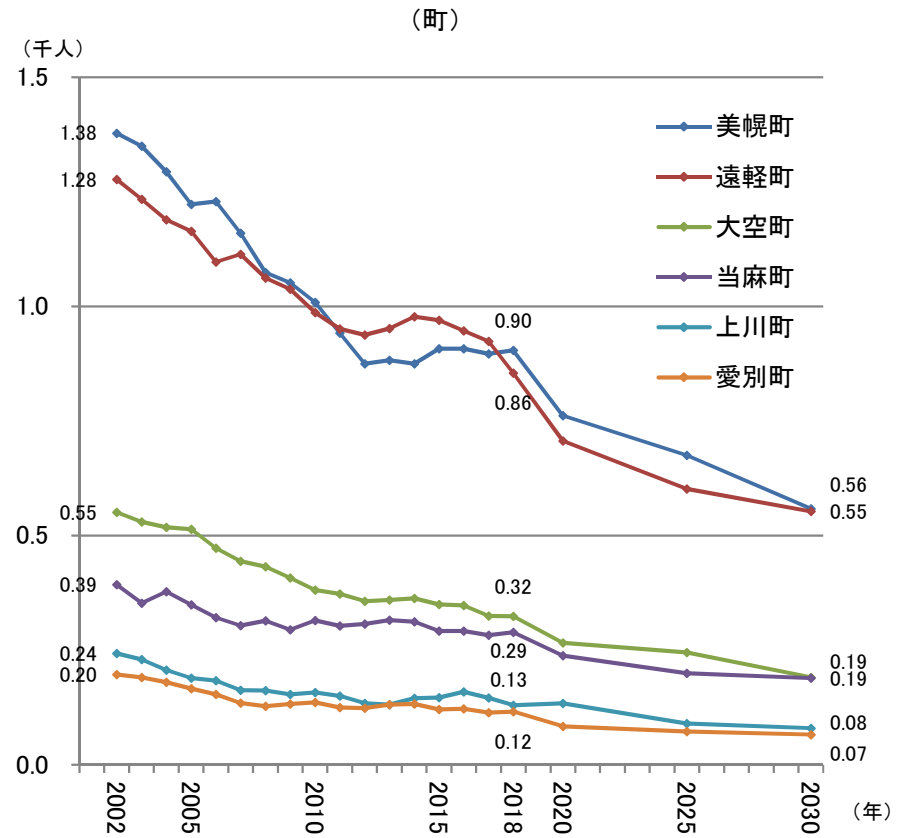
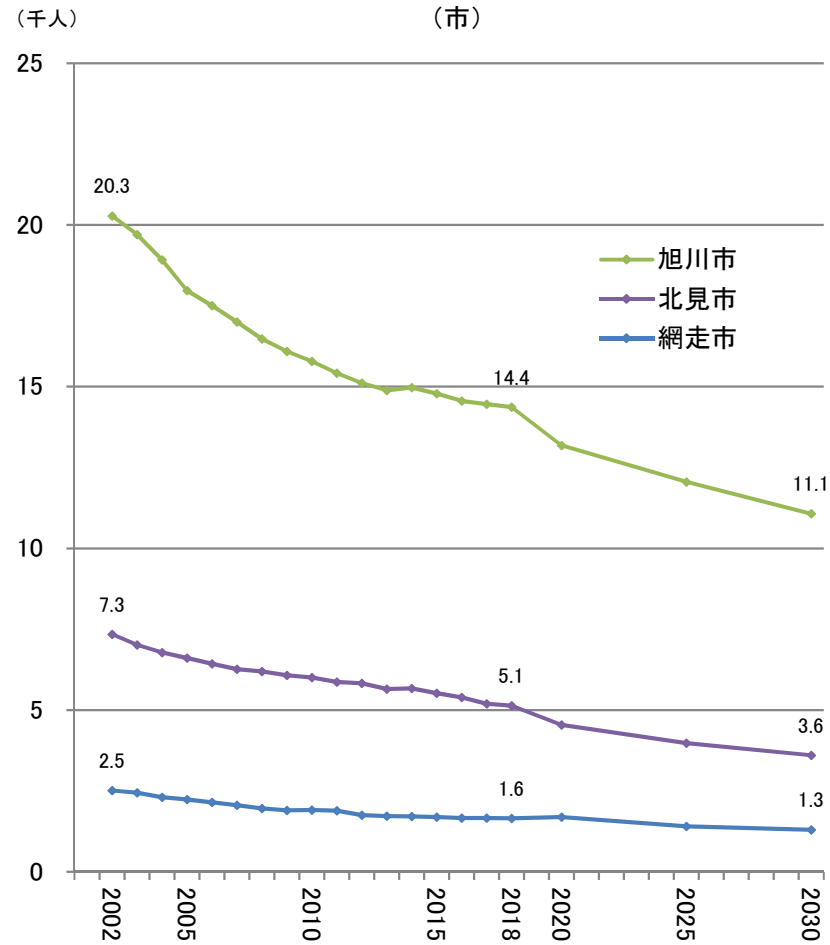
(出典)

・2018年以前 住民基本台帳人口・世帯数【北海道地域振興局町村課】

・2020年以降 日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)【国立社会保障・人口問題研究所】

※2005年以前の北見市には端野町・常呂町・留辺蘂町、遠軽町には生田原町・丸瀬布町・白滝村、大空町には女満別町・東藻琴村の実績を含む。

③市町村別 通学年齢人口(15~19歳)の推移



(出典)

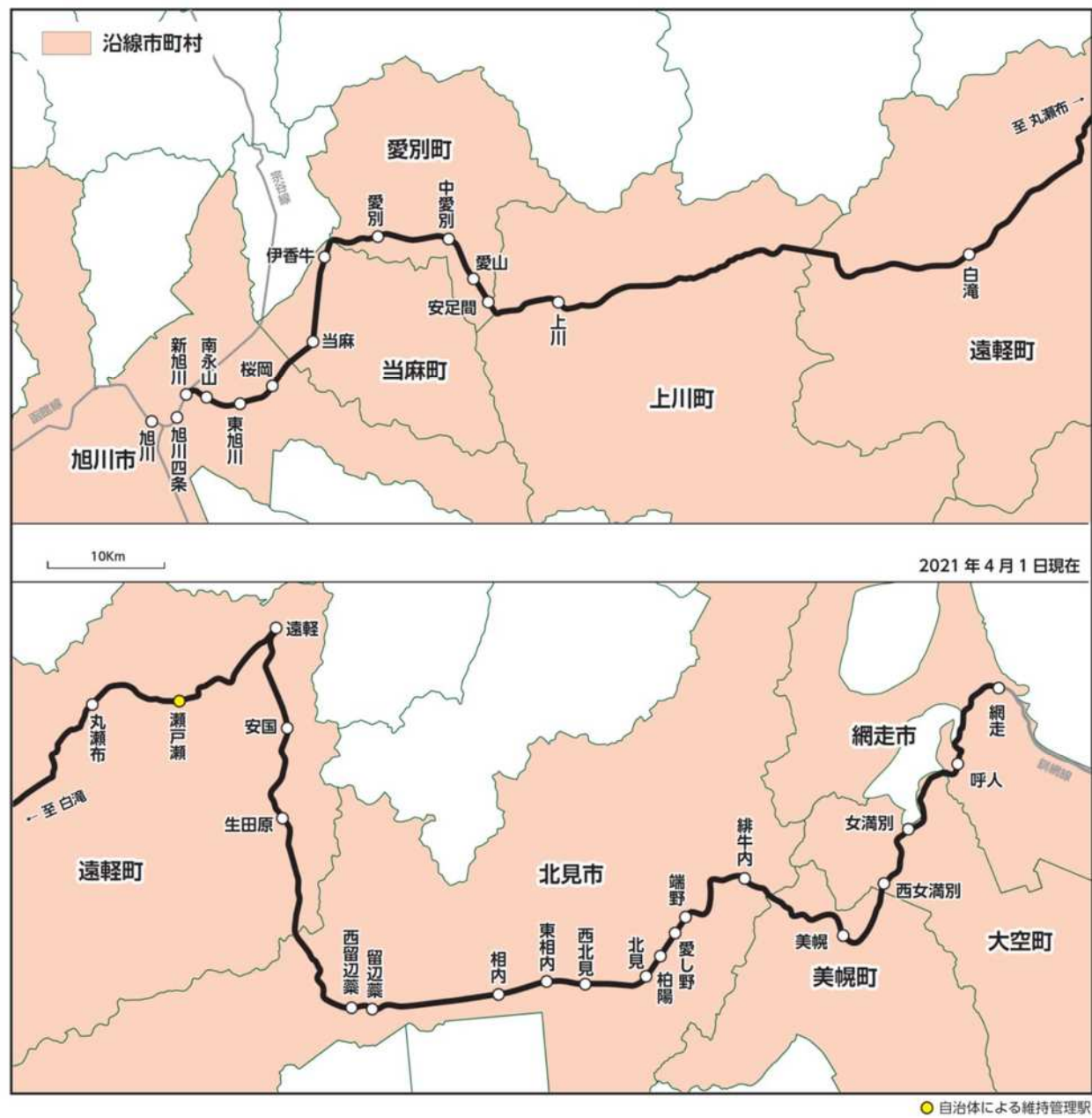
・2018年以前 振興局市区町村別年齢5歳階級別人口【北海道地域振興局町村課】

・2020年以降 日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)【国立社会保障・人口問題研究所】

※2005年以前の北見市には端野町・常呂町・留辺蘂町、遠軽町には生田原町・丸瀬布町・白滝村、大空町には女満別町・東藻琴村の実績を含む。

(2) 石北線(新旭川・網走間)の状況

①沿線地図



②沿革

- ・石北線新旭川・網走間は、網走線、湧別線、ルベシベ線、石北線に分けて建設され、段階的に開業しながら、1932年(昭和7年)に全線が開業しました。全線が開業して89年を経過しています。主な開業年と開業区間は右表となっています。

開業年	開業区間
1912(大正1)	留辺蘂～野付牛(現北見)～網走
1915(大正4)	留辺蘂～遠軽
1923(大正12)	新旭川～上川
1932(昭和7)	上川～遠軽

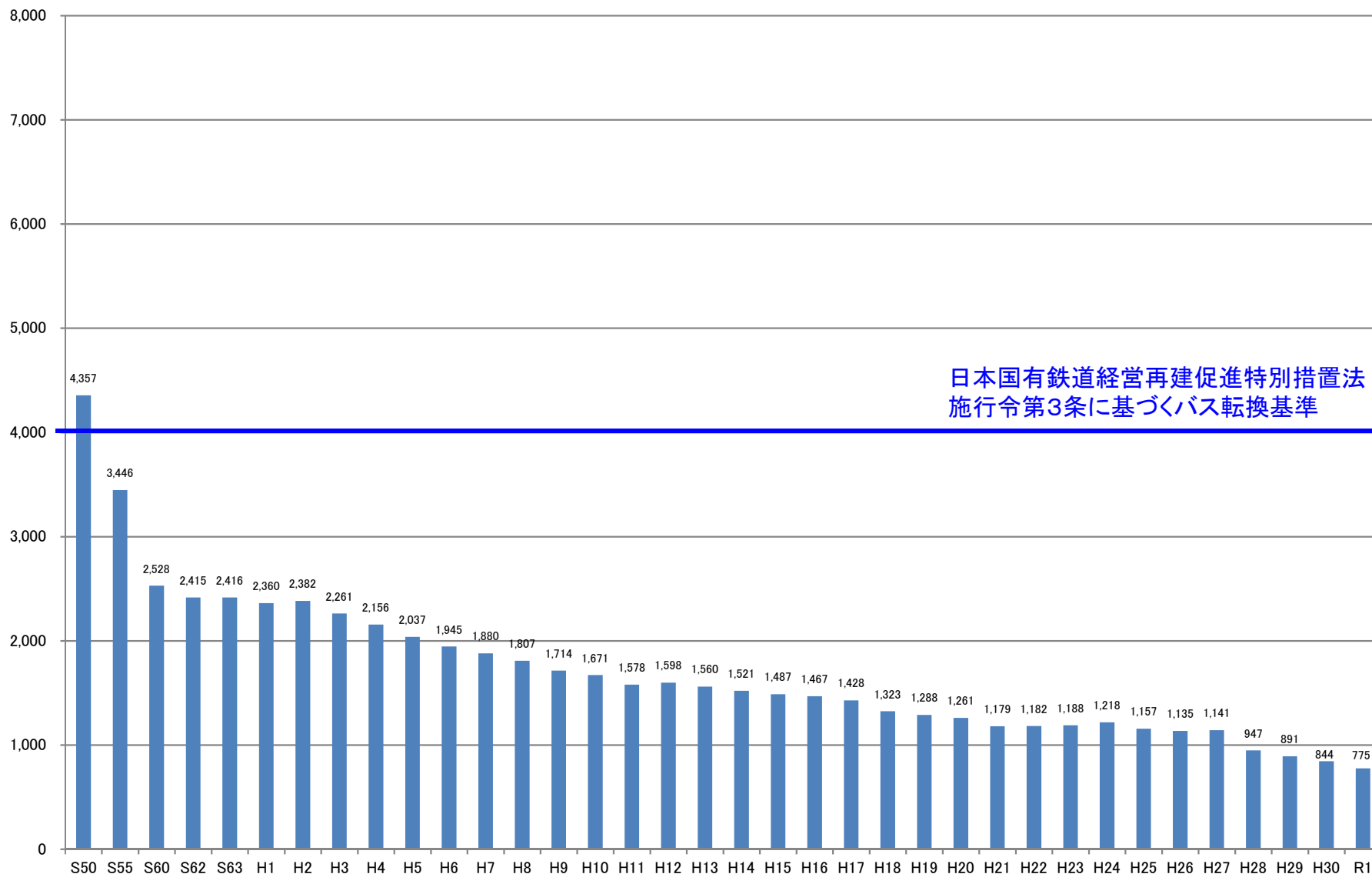
③諸元(2021年4月1日現在)

- ・ 区間 新旭川～網走
- ・ 営業キロ 234.0km
- ・ 列車本数 特急上下8本(うち臨時4本) 普通上下55本(うち臨時1本)
[貨物(新旭川・北見) : 臨時上下6本]
- ・ 駅数 32駅 (うち有人4駅)
- ・ 沿線自治体 旭川市、当麻町、愛別町、上川町、遠軽町、北見市、美幌町、大空町、網走市

④ご利用状況の推移(輸送密度の推移)

■石北線(新旭川・網走間) (昭和50・55・60年度、昭和62年度～令和元年度)

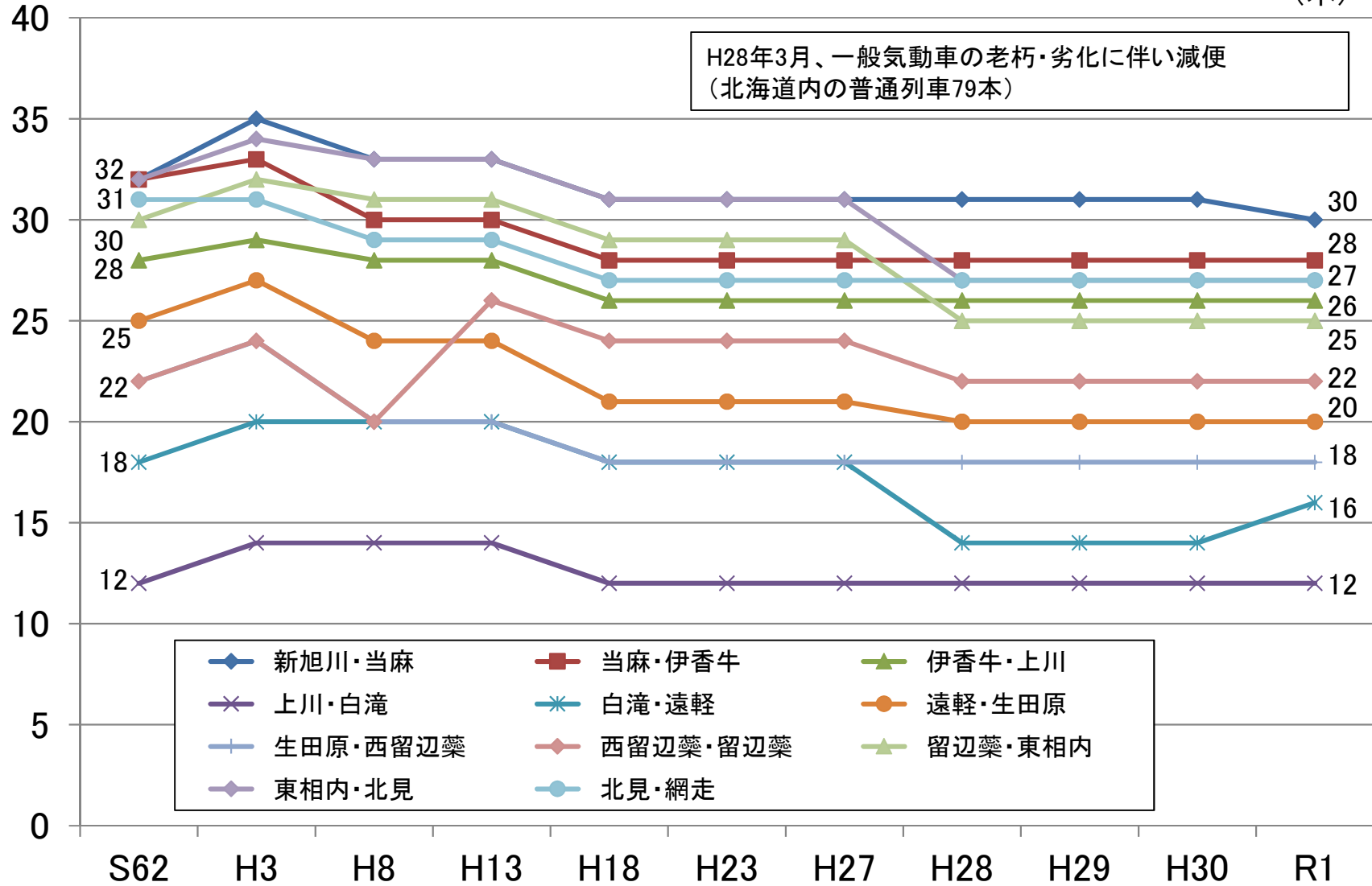
(人/キロ/日)



⑤定期列車本数の推移

■石北線(新旭川・網走間)

(本)

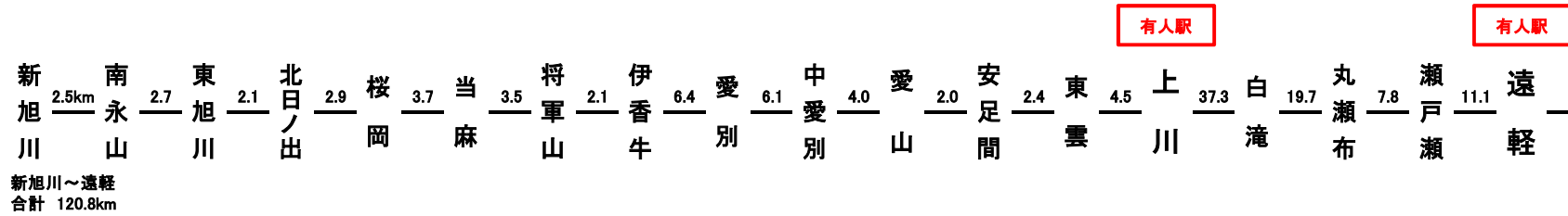


※特急、急行列車を含みます。

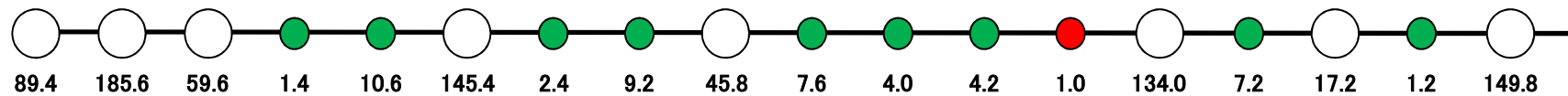
※生田原・西留辺蘂については、H27まで生田原・金華、西留辺蘂・留辺蘂については、H27まで金華・留辺蘂となります。

⑥ 駅別乗車人員

■ 石北線(新旭川・網走間①)



駅別乗車人員 (H27-R1の5年平均)

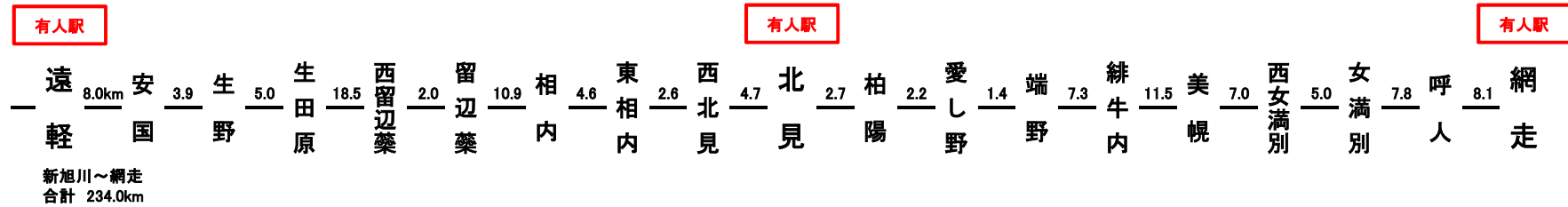


乗車人員 1日平均

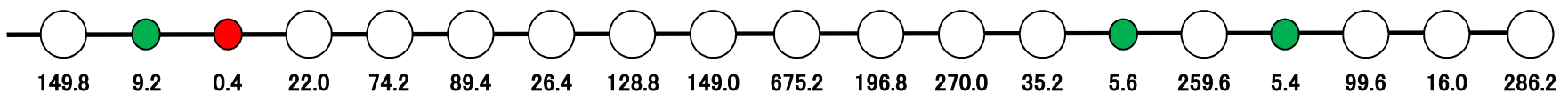
- 1人以下
- 10人以下
- 10人超

⑥ 駅別乗車人員

■ 石北線(新旭川・網走間②)



駅別乗車人員 (H27-R1の5年平均)



乗車人員 1日平均

- 1人以下
- 10人以下
- 10人超

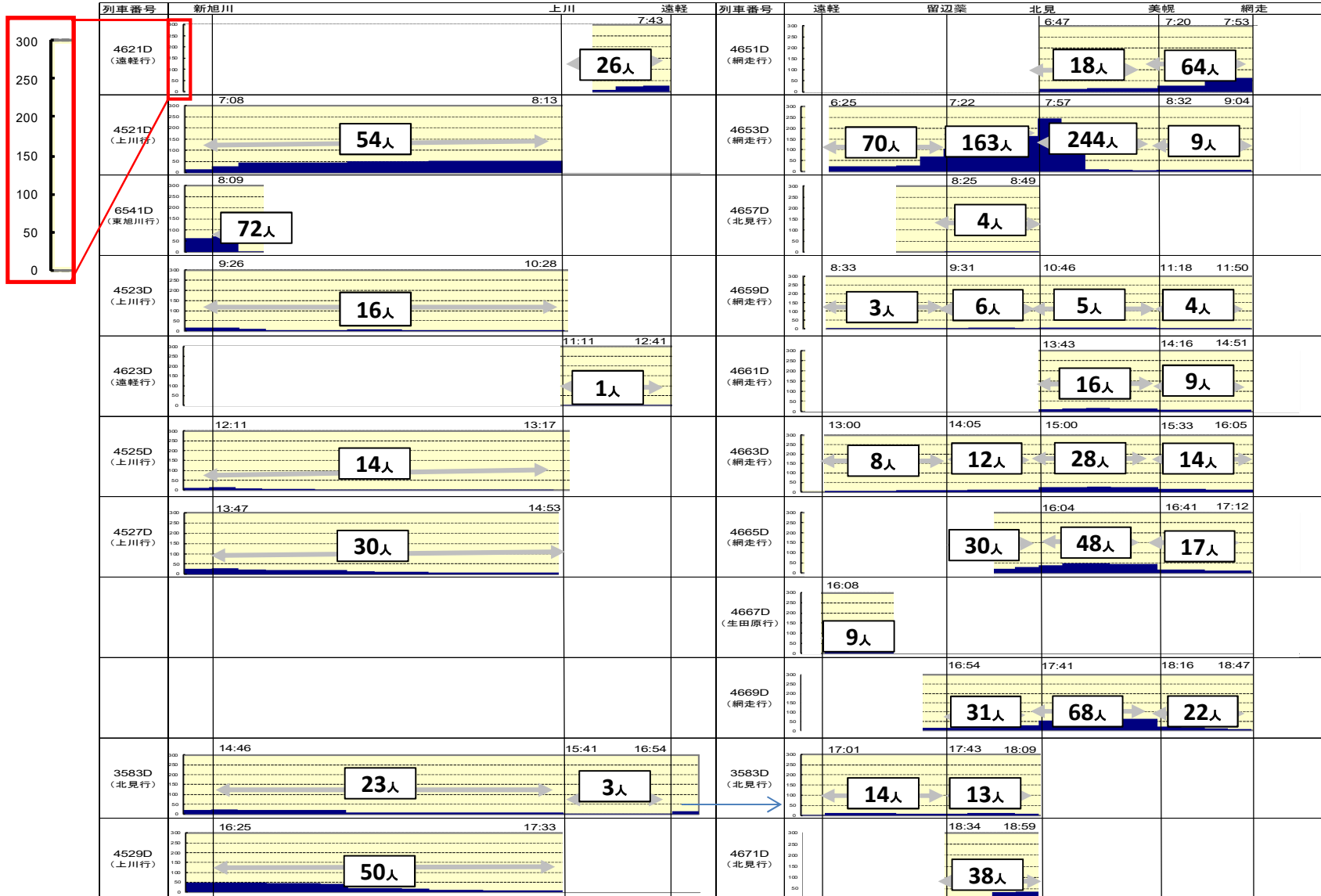
⑦列車別乗車人員

■石北線(新旭川・網走間)①

人数は区間における最大乗車人員

◆下り列車(新旭川⇒網走)

(人)

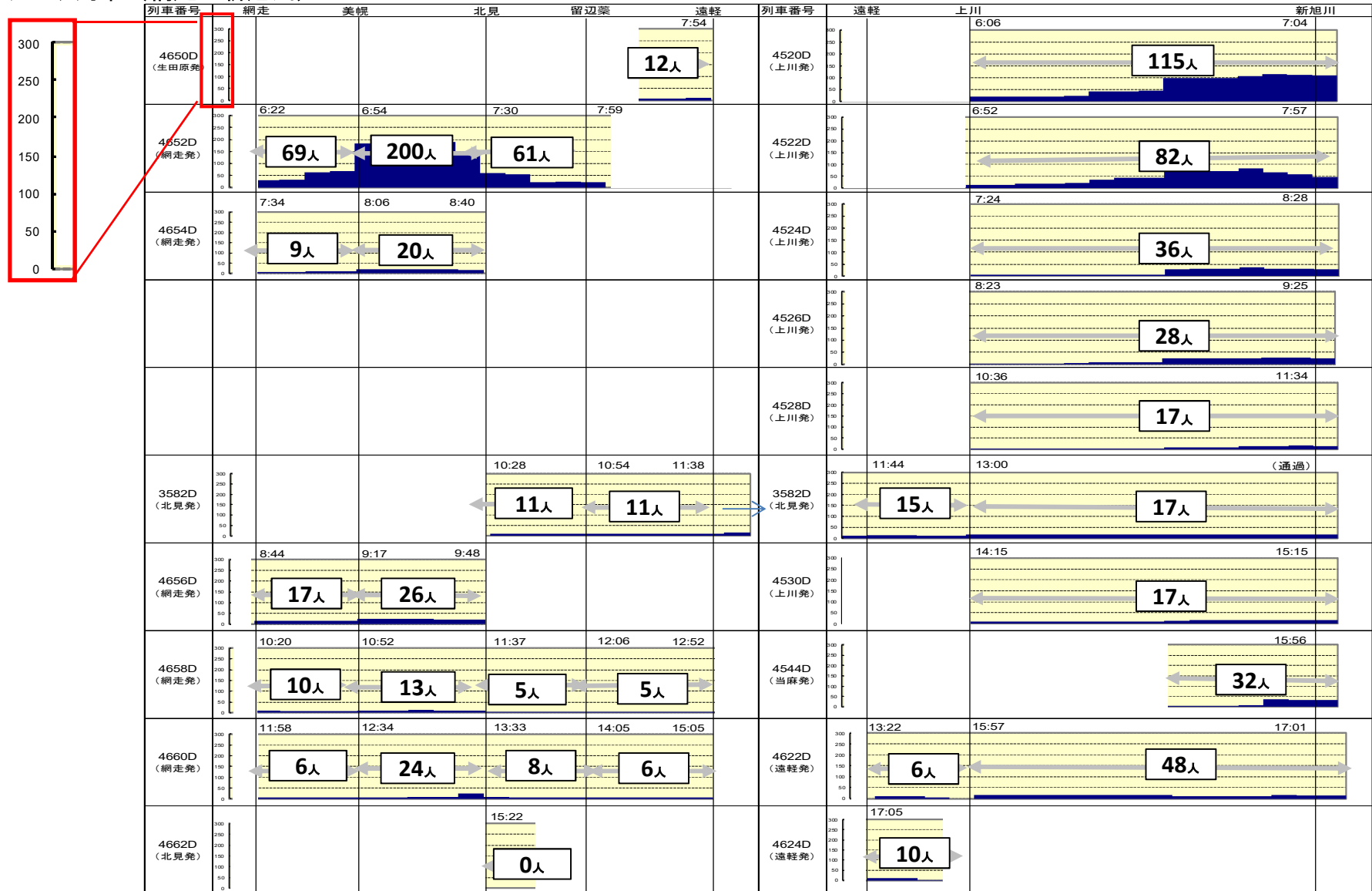


⑦列車別乗車人員

■石北線(新旭川・網走間)③

人数は区間における最大乗車人員

◆上り列車(網走⇒新旭川)



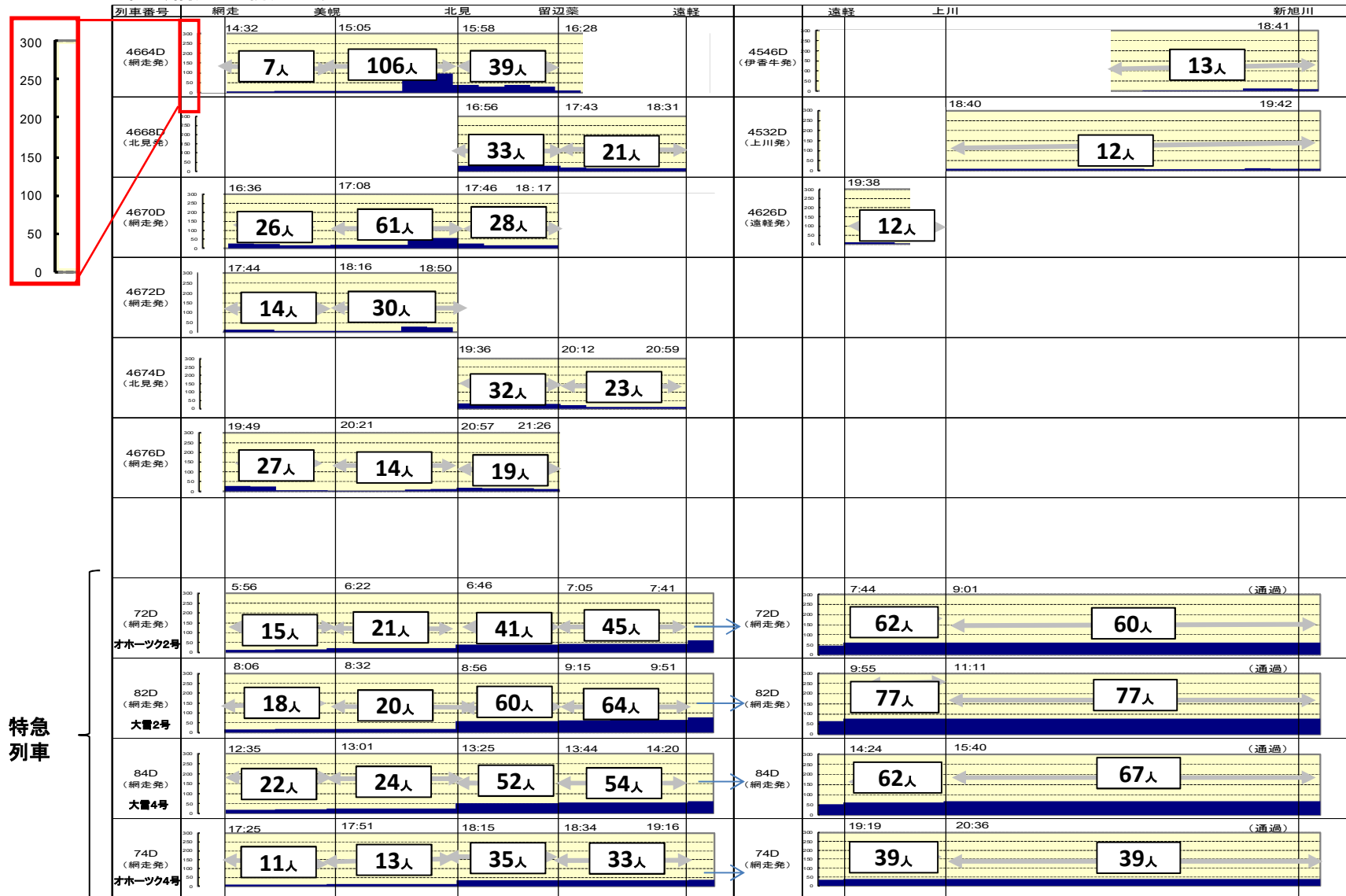
⑦列車別乗車人員

■石北線(新旭川・網走間)④

人数は区間における最大乗車人員

◆上り列車(網走⇒新旭川)

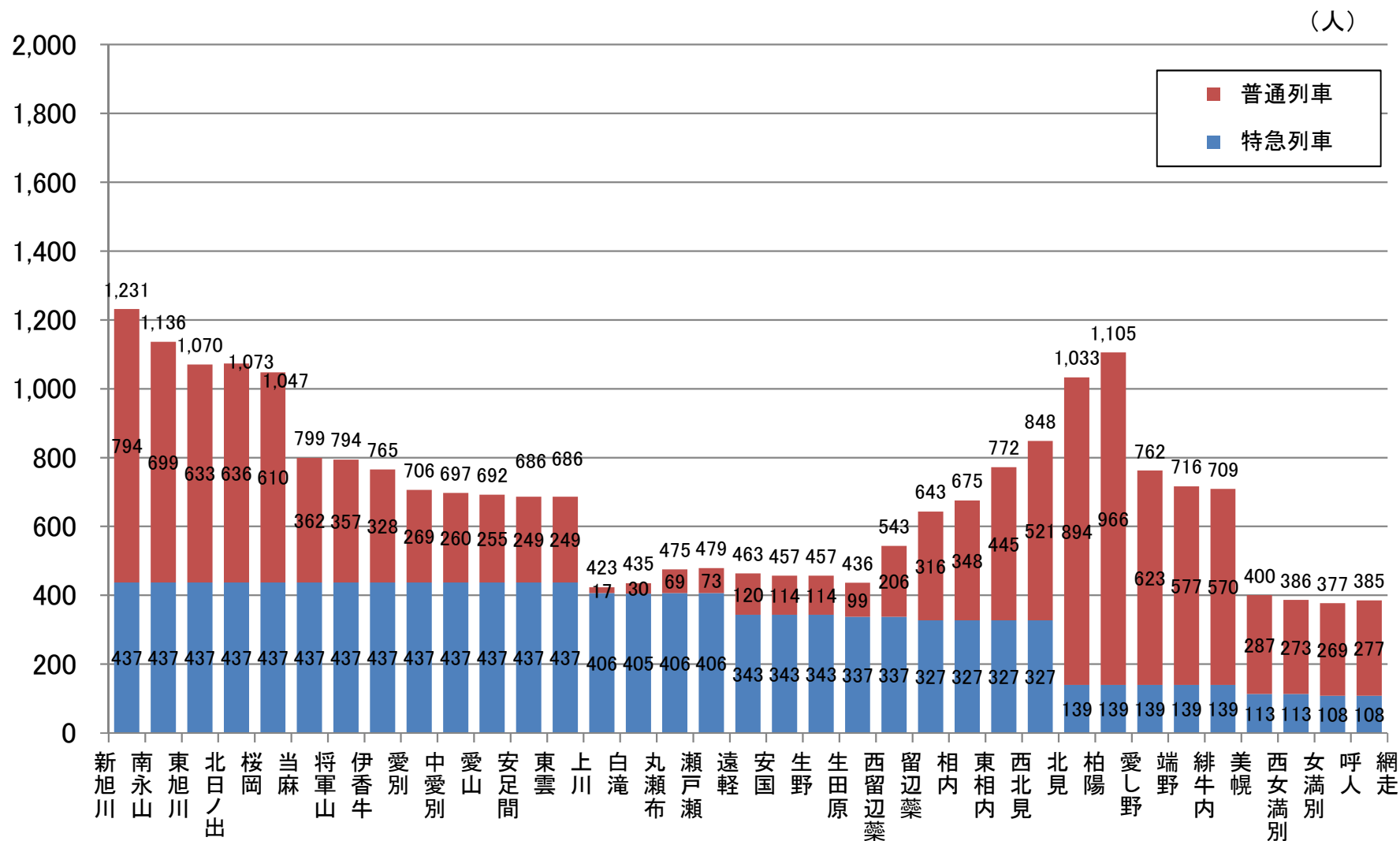
(人)



特急列車

⑧ 駅間別乗車人員

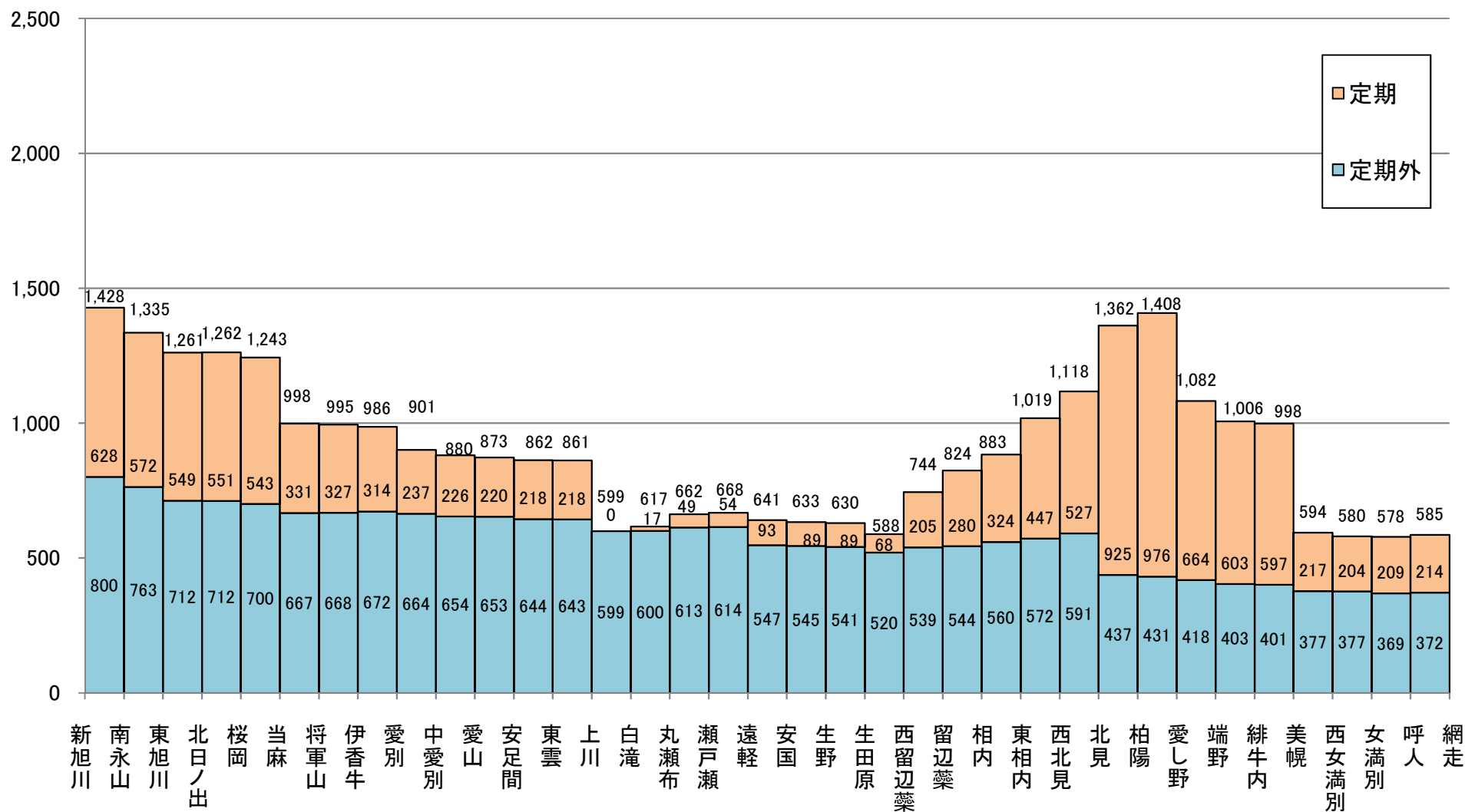
■ 石北線(新旭川・網走間)



⑨ 駅間通過人員

■ 石北線(新旭川・網走間)

(人)



※端数処理のため合計値が合わない場合があります。

⑩定期券発売枚数

■石北線①(新旭川・遠軽間)

(単位:枚)

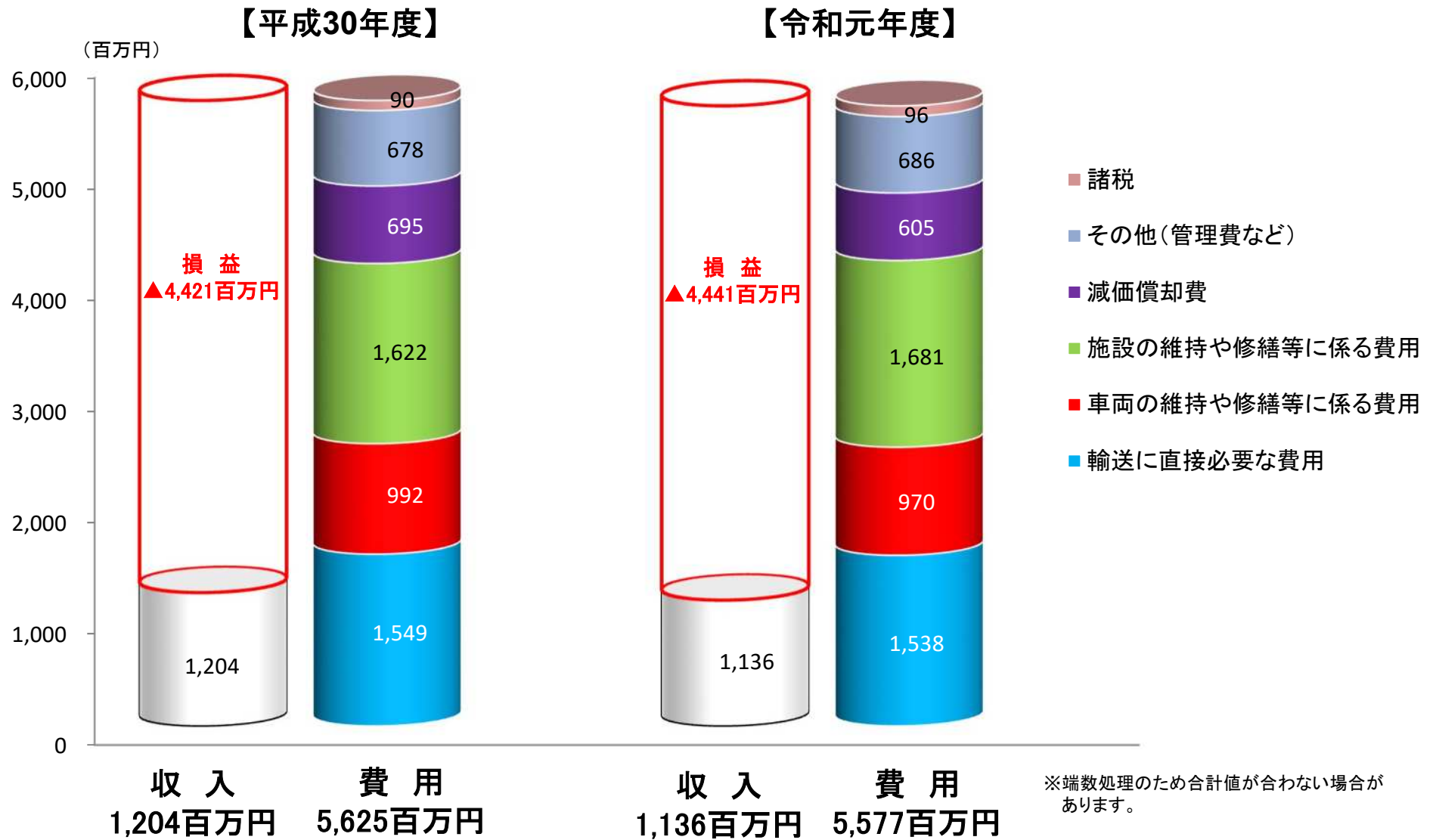
	旭川	旭川四条	新旭川	南永山	東旭川	北日ノ出	桜岡	当麻	将軍山	伊香牛	愛別	中愛別	愛山	安足間	東雲	上川	白滝	丸瀬布	瀬戸瀬	遠軽	(線区外)	合計
線区外 (旭川以遠)				30.9 1.8	4.8 2.0			1.8		0.6	4.7	0.3	1.0			4.7						48.8 3.8
旭川				22.7 7.4	2.3 8.8		1.8 1.7	72.1 24.3	1.9	1.8	30.8 4.3	3.0 1.1		1.0		35.2						172.6 48.5
旭川四条				1.2 1.1	0.3			0.4 1.4	0.1					0.3		8.4 0.3						10.0 3.4
新旭川				14.8 0.3				0.3 0.1			0.1					11.8						26.9 0.4
南永山					1.1 0.4		1.3	13.7 1.7		1.8 0.3	4.6 0.3	1.0 0.1				25.9 0.1						49.3 2.8
東旭川								1.9								5.2 1.0						5.2 2.9
北日ノ出								0.8														0.8
桜岡													0.8			0.2						1.0
当麻										0.9 0.9						10.3						11.2 0.9
将軍山																						
伊香牛																						
愛別																5.1 1.2						5.1 1.2
中愛別																						
愛山																						
安足間																						
東雲																						
上川																						
白滝																						7.3 1.0
丸瀬布																						16.3 2.3
瀬戸瀬																						2.3
遠軽																						
合計				69.6 10.6	8.3 11.4		3.0 1.7	88.3 30.1	1.9 0.1	5.2 1.3	40.2 4.6	4.3 1.2	1.8 1.3	1.0		106.6 2.5					25.8 1.0	355.8 65.7

凡例: 通学定期券月平均発売枚数
 通勤定期券月平均発売枚数

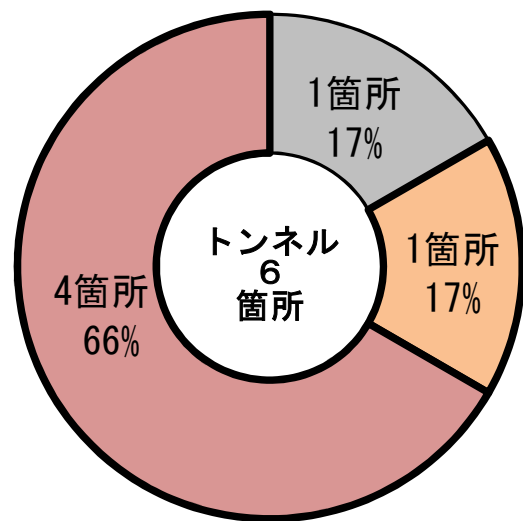
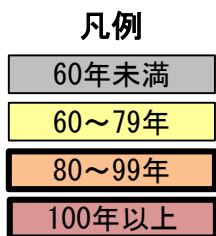
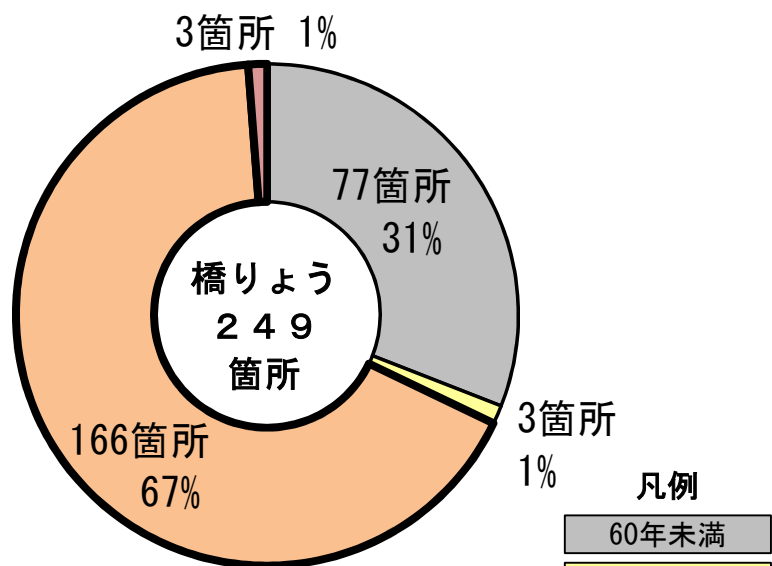
※1ヶ月定期は1枚、3ヶ月定期は3枚、6ヶ月定期は6枚として集計
 ※経路は最も安価な経路で集計
 ※小数点第1位未満は四捨五入

⑪線区別収支

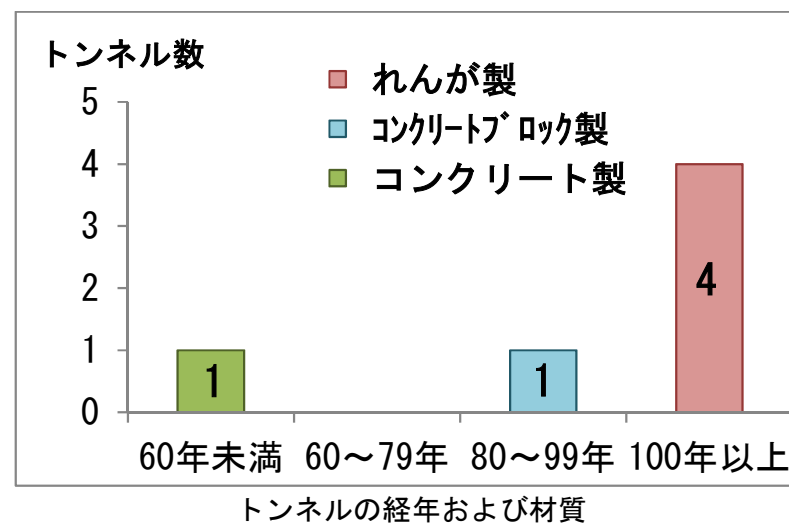
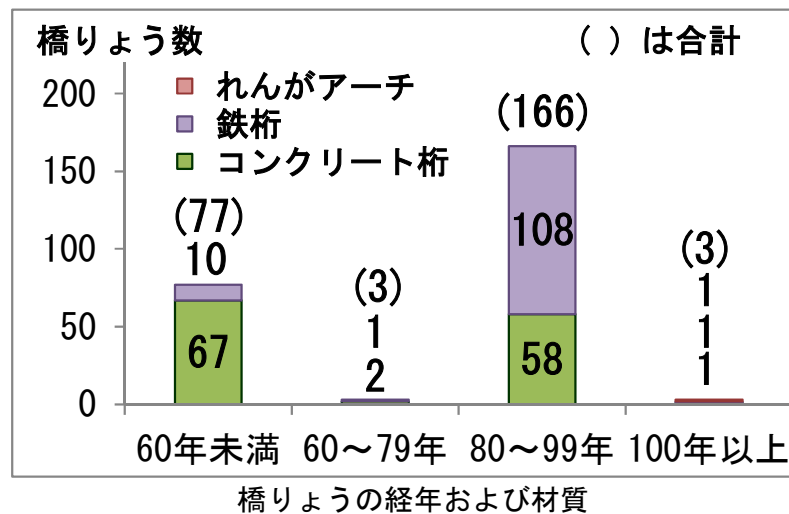
■石北線(新旭川・網走間)



⑫土木構造物の現況、土木構造物の大規模修繕・更新費用



※平成29年1月現在



○ 橋りょう

【鋼橋の腐食対策】

石北線 新旭川・網走間: 18億円

- ・ 広範囲にわたって腐食が進むと、橋りょうの寿命が短くなる
- ・ 経年の進行を踏まえ、鋼橋を永続的に使用するため、定期的な塗装の塗替えを実施



腐食が発生した橋りょう

(例: 根室線 東滝川・赤平間 第3空知川橋りょう)

【鋼橋の亀裂対策】

石北線 新旭川・網走間: 4億円

- ・ 経年が進むにつれて、桁に亀裂が発生することがある
- ・ 亀裂発生を防ぐ予防的な措置として、亀裂の原因となる橋桁を支える台座部分(支承部)の不具合の修繕を事前に実施



亀裂が発生した橋りょう

(例: 石北線 丸瀬布・瀬戸瀬間 金山湧別川橋りょう)

○ 橋りょう

【橋脚の洗掘対策】

石北線 新旭川・網走間: 4億円

- 増水時に川底が削られる（洗掘）ことで、橋脚の安定性が損なわれる恐れのある橋脚に対して根固め工を実施



(例: 宗谷線 糠南・雄信内間 問平陸橋)

○ トンネル

【地山の影響による変状対策】

石北線 新旭川・網走間：1億円

- ・ 周辺地山からの外力に耐えられなくなり、トンネルの内部空間の縮小や線路の隆起などの変形が起きたトンネルについて、補強工事を実施

※ ロックボルトとは、棒状の鋼材をトンネル内側から地山に向けて打設する工法で、地山がトンネル側に変形しようとする力に対抗します。



棒状の鋼材を地山に打込む
(例:長さ6m、太さ25mm)

(ロックボルト施工状況)

(例:根室線 落合・新得間 第4落合トンネル)

○ トンネル

【覆工材料の劣化・剥落対策】

石北線 新旭川・網走間: 22億円

- ・ れんが等で造られた古いブロック積みトンネルは、ブロック本体およびブロック同士をつなぐ目地材料の劣化が進んでいる
- ・ れんが等の覆工材料の剥落を防止し、トンネルの寿命を延ばすため、覆工の改築・補強工事を実施



ネットによる
落下防止

劣化したれんがトンネル

(例: 石北線 生田原・西留辺薬間 常紋トンネル)

【トンネルの漏水対策】

石北線 新旭川・網走間: 3億円

- ・ つらら防止のため過去に設置された古い漏水防止工の劣化が進み、材料が剥がれたり、漏水が染み出てつららが発生し列車の運行に影響を及ぼす恐れがある
- ・ 経年の進んだ古い漏水防止工から新型の漏水防止工への取替を実施



漏水の
染み出し

劣化した漏水防止工

(例: 函館線 熱郛・目名間 第2白井川トンネル)

■ 今後20年間で運営赤字とは別に必要となる土木構造物の大規模修繕・更新費用

	設備概況		費用内訳(単位:億円)			
	種別	数量	項目	数量	費用	計
石北線 新旭川・網走間	橋りょう	249橋	①鋼橋の腐食対策	117橋(217連)	18	26
			②鋼橋の亀裂対策	43連	4	
			③橋脚の洗掘対策	7橋(12橋脚)	4	
	トンネル	6箇所	①地山の影響を受けるトンネルの変状対策	1箇所	1	26
			②覆工材料の劣化・剥落対策	5箇所	22	
			③トンネルの漏水対策	4箇所	3	
	経年進行に伴う恒常的な維持管理費用の増加				5	5
	計				57	57

※ 金額は億円未満を四捨五入して表示しています。

⑬車両の更新費用

■今後20年間で運営赤字とは別に必要となる車両の更新費用

1 車両の現状及び更新の考え方

- ・ 全車両が更新時期を迎えるため、新製車両への更新が必要
- ・ 一般用の新製車両については、現在試作車を製作中である電気式気動車を想定

2 今後20年間の車両更新費用

1の考え方に基づき算出した今後20年間の車両更新費用は以下のとおりです。
なお、更新車両数は平成29年4月時点のダイヤを前提として算出しています。
また、観光列車用（ノロッコ号、SL等）の車両は含んでいません。

(単位:両、億円)

線 区	更新車両数	車両更新費用
石北線(新旭川～網走間)	47 (20)	114 (60)

※1 金額は億円未満を四捨五入して表示しています。

※2 ()内は特急用車両(再掲)です。